令和6年度　能美市立寺井小学校　学校評価（前期）

| 重点目標（めざす姿） | 具体的方策 | 主担当 | 評価指標 | 〈評価の根拠〉達成度判断基準 | 教職員アンケート | 児童アンケート | 保護者アンケート | 取組状況 | 評価 | 今後の改善点と具体的方策 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 組織的な学校運営 | ①【組織的な学校運営】<br>主任等を中心とした各組織がPDCAサイクルを機能させ、共通理解、共通行動で教育活動を進める。 | 教頭 | 学年会やチーム会で、取り組みの反省を生かし、情報共有や指導の統一ができている。 | ＜実施状況・アンケートの状況＞<br>A:＋評価90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | 学年会やチーム会で、取り組みの反省を生かし、情報共有や指導の統一ができている。<br>(A36%,B60%,C4%) | | | 毎週の職員終礼を利用して、職員全員で情報共有や指導の統一を図ることができた。 | B | 2週間に1回、学年会を予定として組み込み、学年会で定期的に計画や改善点を話し合うようにする。また運営主任会でその内容を報告、交流し、共有を図る。 |
| | ②【いじめ・不登校等の未然防止】<br>日常の情報共有・報告・連絡・相談を適切に行い、いじめや不登校等の課題に迅速・適切に対応し、安全・安心な学校づくりをする。 | 教頭 | ・いじめ等記録シートで報告し、組織的に迅速に対応する。<br>・ひだまり教室等を活用して、不登校傾向の児童に組織的に関わることができている。 | ＜実施状況・アンケートの状況＞<br>A:＋評価90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | ・いじめ等記録シートで報告し、組織的に迅速に対応した。<br>(A80%,B16%,C4%)<br>・ひだまり教室等を活用して、不登校傾向の児童に組織的に関わることができている。<br>(68%,28%,4%) | | | いじめ事案に対し、生徒指導主事を中心に組織的に迅速に対応できた。また、1学期自分の学級教室に時々しか入れなかった児童が、ひだまり教室に朝、荷物だけ置いて自分の学級教室に行けるようになった。 | A | いじめ事案に対し、級外生徒指導主事が中心となり、管理職と連携して迅速に対応できた。2学期は級外生徒指導主事が学級担任となり、これまでと同様の連携が難しい場合が想定される。そのため、学年主任が中心となって、管理職と連携して迅速に対応できるようにもしていく。 |
| | ③【業務改善・働き方改革の推進】<br>教科担任制やICTの効果的な活用、学年会やチーム会を通して組織としての指導の充実を図り、業務改善・働き方改革を推進する。 | 教頭 | 時間外勤務時間が2ヵ月連続で80時間を超える教職員数ゼロを目指す。 | ＜勤務時間集計＞<br>A:ゼロ<br>B:1～2人<br>C:3～4人<br>D:5人以上 | 2ヶ月連続で80時間を超える職員数(0人) | | | 4月は80時間超えが3人いたが、以降は0人だった。 | A | 2か月連続は0人であったものの、45時間超えの職員が10人近くいる。今後も継続して声かけと業務改善の支援をしていく。 |
| 2 知（進んで学ぶ子） | ①【情報収集する力の育成】<br>児童が探究サイクルを回すことができる授業を構想し、一人ひとりの学ぶ力を的確に見取り、情報収集する力を全教科横断的に育成していく。 | 研究主幹 | 総合・生活科を中心に「授業に主体的に取り組んでいる。」「学ぶことが楽しい。」と感じている児童の割合 | （教・児アンケート）<br>A:: 90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | 総合・生活科を中心に、児童主体の単元構想をしている。<br>(A13%,B69.6%,C17.4%) | （中高学年）<br>総合的な学習で自分たちで課題を見つけて学習を進めることができる。<br>(A46%,45B%,7.4C%,D1.6%)<br>（低学年）<br>生活科で進んで学習に取り組んでいる。<br>(A58.2%,B28.9%,C7.2%,D5.7%) | | 1学期は動画で各サイクルの具体を教職員間・児童間で共有した。情報収集の具体の姿も共有することができた。 | B | 校内研修・運営主任会を通して、生活・総合を中心に児童が探求する単元構想ができているかを進捗確認・実践の共有を行う。見取りについては共有が十分になされていないため、2学期で取り上げていきたい。 |
| | ②【論理的に考え、伝える力を高める】<br>言語技術の型を示し、教育活動の中でアウトプットする場面を設定し、活用を価値づけ、論理的に考え、伝える力を高めていく。 | 研究主幹 | 3つの接続詞を用いて学習のふりかえりをすることができている児童の割合 | 単元末におけるふりかえり3つの接続詞を用いて書けている児童の割合<br>A:90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | 3つの接続詞を用いてふりかえりを書かせたことで、子どもたちが論理的に考え、伝える力がついたと思う。<br>(A8%,B64%,C16%,D12%) | （低）<br>・3つの接続詞をつかって話したり、ふりかえりを書いたりすることができた。<br>(A44.3%,B17%,C16.5%,D22.2%)<br>（中・高）<br>・3つの接続詞を使って、自分の考えを話したり、書いたりすることができた。<br>(A46.9%,B38.8%,C11.3%,D2.9%) | | はくれいタイム(金曜)のR80、書くトレーニングでの基礎練習をもとに、授業末や単元末での振り返りやまとめで活用している。 | C | ・引き続き、R80や書くトレーニングで「つなげる」「言いかえる」「くらべる」接続詞を使って自分の考えを書くトレーニングを継続するとともに、日々の授業の中で自分の考えを表現する際に活用するよう、教師が意識的に使わせたり、価値づけていく。児童自身が活用した接続詞に印をつけるなど振り返り方法を工夫する。低学年については、「なぜなら」を使って自分の考えとその理由を「話す」ことを中心に取り組む。<br>・教師自身も上記の指導を意識してできたか、中間（10月）・学期末（12月）で振り返り、指導改善を図る。 |
| | ③【主体的・対話的で深い学びの実現】<br>ICTの効果的な活用による個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に努め、主体的・対話的で深い学びの実現を目指す。 | GIGA研究 | 情報収集したり、表現したりするツールとして端末を活用している児童の割合 | （教・児アンケート）＋評価<br>A:: 90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | 情報収集したり、表現したりする場面で端末を活用させている。<br>(A52%,B40%,C4%,D4%) | （低）<br>学校生活の中で端末を活用している。<br>(A78.4%,B18%,C2.6%,D1%)<br>（中・高）<br>情報収集したり、表現したりするツールとして日常的に端末を活用している。<br>(A70.6%,B26.5%,C2.6%) | | 本校においては学習ツールとしての端末の位置づけが確立されている。インターネット検索や写真撮影・アンケートの作成に代表される情報収集ツールとしてだけでなく、整理分析・表現まとめの場面でも端末を活用した授業が全学年広く普及している。 | A | 今後も単元構想の中にICTの利用場面を位置づけ、児童ができることの幅を広げていく。利用が低学年A＋B＝96.4%、高学年A＋B＝97．1%と十分に活用されており、今後もこの利用方針で継続していく。 |
| 3 徳（思いやりのある子） | ①【生徒指導の4つの視点】<br>生徒指導の4つの視点を生かした教育活動を行い、児童の自己達成感や自己有用感を高め、一人ひとりが安心して学級で過ごすことができるようにする。 | 生徒指導 | ・チェックシート→教職員アンケートで自己存在感（褒める・認める）の項目で肯定的評価がつく教師の割合。<br>・「学校が楽しい」に当てはまると答える児童の割合。 | ＜教・児・保アンケート＞<br>＋評価<br>A:90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | 児童を褒める認める言葉がけを意識して行っている。<br>(A76%,B24%)<br>また、てらいっ子の足跡の活動を通して、学級の成長や良さを認めている。<br>(【担任】A30%,B70%) | 学校生活は楽しい。<br>(A59%,B31.7%,C6.4%,D3%) | お子さんは学校生活を楽しんでいる。<br>(A45.7%,B50.3%,C3.7%,D0.3%) | 月末の生徒指導の4つの視点チェックシートでも褒める認めるの肯定的評価が高く、教育活動の中で褒める認める言葉がけを意識して行うことができている。てらいっ子の足跡は、学級の成長したこと・良い所について話し合ったことを紙に書き、教師がコメントを返して、職員室前掲示板に掲示した。 | A | てらいっ子の足跡の取組を通して学級のよさを認めるという点は8評価が多く、取組の改善が必要である。てらいっ子の足跡を月に1度、学活の時間の始めに取り組むようにし、自分の学級の成長や良さを認められる場としていく。 |
| | ②【親和的な集団づくり】<br>進んであいさつすることや温かな言葉・反応を大切にし、親和的な集団づくりを支援する。 | 生徒指導 | ・「自分が気持ちの良いと思えるあいさつをしいている」に当てはまると答える児童の割合。<br>・「温かな言葉・反応を大切にした集団づくりを心がけている」に当てはまると答える教師の割合。 | ＜教・児アンケート＞<br>＋評価<br>A:90%～<br>B:80%～<br>C:70%～<br>D:70%未満 | 教師自身が気持ちのよいあいさつを行い児童のお手本を心がけている。<br>(【担任】A56%,B44%)<br>お互いに認め合うことを目的とした活動（ハッピーレター等）、言葉がけ手引き、親和的な集団づくりを支援している。(【担任】A55%,B40%,C5%) | 自分が気持ちの良いと思えるあいさつをしている。<br>(A45.6%,B38.1%,C12.6%,D3.8%) | | 児童会を中心に「あいさつ運動」「ありがとうの輪」の取組を行った。「ありがとうの輪」では、児童同士が感謝の言葉をハッピーレターの形式で伝え合った。ハッピーレターの取組は、行事の後でなくとも字等・担任の裁量で随時行い、児童にも友達の良さを伝えることが定着してきている。 | B | ・児童会を中心に「自分が気持ちのよいあいさつ」をテーマにあいさつ運動を企画・実行する。<br>・ハッピーレターの取組は定着しているが、温かな言葉・反応を大切にするという点で課題が残る。温かな学級集団作りができるよう、夏の研修で考えた手立てを2学期間意識して取り組んでいく。 |
| 4 体（よりよく生きる子） | ①【自分の命・健康を自分で守る】<br>自分の生活を整え、自分の命・健康を自分で守る力をつける取り組みを行う。 | 保健主事 | ・「感染症や熱中症を予防しようと考えて学校生活が送れている。」に当てはまると答える児童の割合。<br>・「感染症や熱中症を予防するための行動を自分で考えてできるよう指導している。」に当てはまると答える教師の割合。<br>・「学校は、校内外の安全指導に努め、事故防止に配慮している。」に当てはまると答える保護者の割合。 | （教・児・保アンケート）<br>＋評価<br>A:～85%<br>B:～75%<br>C:～65%<br>D:65%未満 | 感染症や熱中症を予防するための行動を自分で考えてできるよう指導している。(【担任】A61.9%,B38.1%,) | 感染症や熱中症を予防しようと考えて学校生活が送れている。<br>(A54.3%,B35.3%,C7.8%,D2.6%) | 学校は、校内外の安全指導に努め、事故防止に配慮している。<br>(A36%,B60.9%,C2.9%) | 熱中症対策として、児童玄関前に当日の暑さ指数に基づく熱中症予防掲示板を設置した。また、健康安全チーム（保健主事）だけでなく、児童の保健委員会も熱中症予防のスライドを作成し、校内放送を行った。 | A | ・熱中症予防については、児童が自分の命を守れるような取組を進めることができた。その一方、塩分タブレットの持参・摂取の面でトラブルもあるなど、自分の健康を守るための手立ての理解が不十分な児童も見られた。<br>・校内外の安全について、下校の仕方や放課後の過ごし方については引き続き指導していく。 |
| | ②【目標を持って運動に取り組む】<br>運動の楽しさや喜びを味わい、考えたり工夫したりしながら、運動の課題を解決する体育科の授業を行う。 | 保健主事 | ・「体育の授業は楽しい」と答える児童の割合<br>・「児童自らが課題を設定し、体力・技能の向上や課題解決できるような体育科の授業を行っている。」に当てはまると答える教師の割合 | （教・児アンケート）＋評価<br>A:～85%<br>B:～75%<br>C:～65%<br>D:65%未満 | 児童自らが課題を設定し、体力・技能の向上や課題解決できるような体育科の授業を行っている。<br>(【体育受け持ち教員】A20%,B60%,C20%) | 体育の授業は楽しい。<br>(A77.9%,B15.4%,C3.6%,D3.2%) | | 体力カテストをデジタル化したことで、児童一人ひとりが自らの体力面の課題を即座に把握できるようにした。大半の児童は運動の楽しさを味わいながら活動できている。 | B | ・児童が課題発見・課題解決できるように、教師が単元の見通しを持てるようにする。そのために、健康安全チームを中心に、各活動における段階的指導を提案していく。<br>・本校の運動能力の課題である柔軟性を高めるため、「新寺井っ子体操」や逢田先生の研修内容を授業にも取り入れる。 |
| 5 家庭・地域との連携協働 | ①【PTAや学校運営協議会との連携】<br>PTAや学校運営協議会と連携を高め、保護者や地域の力を生かした教育活動を充実させる。 | 教頭 | 学校は、地域や保護者の力を生かして教育活動を行っている。 | ＜保・教アンケート＞<br>A:＋評価90%～<br>B:80%～ C:70%～<br>D:70%未満 | 読書ボランティアの読み聞かせ・学習サポーター等、学校は、地域や保護者の力を生かして教育活動を行っている。<br>(A84%,B16%) | | 読書ボランティアの読み聞かせ・学習サポーター等、学校は、地域や保護者の力を生かして教育活動を行っている。<br>(A47.1%,B50.3%,C2.3%,D0.3%) | 図書の読み聞かせ、計算学習や家庭科実習、生活科町探検やプール授業のサポート等、地域の方や保護者の方にたくさんお手伝いいただいた。 | A | 今後もPTAや学校運営協議会と連携しながら、地域の方や保護者の方に積極的に学習サポートの協力を呼びかけ、推進していく。 |
| | ②【開かれた学校づくり】<br>家庭や地域に学校教育活動の様子を発信し、信頼される学校づくりを進める。 | 教頭 | 学校は、紙でのお便りの他、ホームページやコドモン、クロームブックを使って、学校のことを保護者に伝えている。 | ＜保・教アンケート＞<br>A:＋評価90%～<br>B:80%～ C:70%～<br>D:70%未満 | 学校は、紙でのお便りの他、ホームページやコドモン、クロームブックを使って、学校のことを家庭や地域に伝えている。<br>(56%,B44%) | | 学校は、紙でのお便りの他、ホームページやコドモン、クロームブックを使って、学校のことを保護者に伝えている。<br>(A40%,B56.3%,C2.6%,D1.1%) | 電子媒体で配信するもの、紙媒体で配布するものを職員全体で共通理解し、配信や配布をした。学級だよりは、担任がクロームブックのクラスルームに学級だよりをアップすることで進めてきた。 | B | 見守り隊の方へ配布した下校時刻に変更があった場合、毎月初めにコドモンを通してお知らせする。また、クラスルームに配信した学級だよりを必ず保護者に見せるよう、児童に指導する。 |